学べるゲラ

第47回 気象予報士

※2024年2月の毎日新聞記事を元にした文章です。
校閲し、直すべきところを指摘してください。

「風向きを知るのに気象予報士はいらない」。米国のボブ・ディランさんの代表曲「サブレタニアン・ホームシック・ブルース」の一節だ。他人に左右されず、自分で判断しようとの思いを込められているらしい▲気象予報士の影響は大きい。能登半島地震の被災地では普段の降雪も災害になりかねず、「命を守るための情報を伝える重い役割」とNHK番組で気象担当の斉田季美治さん。日本で30年前に第1号が誕生し、米国は2月5日が気象予報士の日という▲1745年のこの日に生まれた医師、ジョン・ジェフリーズの功績を評価した。84年に気球から世界初の気象観測をした先駆者だ。米海洋大気局は「気候変動や警報に必要なデータを提供するすべての人をたたえる日」としている▲観測項目は天気に限らない。動植物の分布を含め幅広く記録し交換することが、異変の早期発見と注意換気につながる。だが、そんな強力関係に水を差す事態が起きている▲生態系や永久凍土の状態などロシアのデータが共有されなくなった。ウクライナ侵攻を批判する西側への嫌みだろう。世界平均より急速に気温が上昇する南極圏は、危険を察知する「炭鉱のカナリア」だ。国際観測チームを代表しデンマークのエフレン・ロペスブランコ博士は「地球で何が起きるか予測する上で打撃」と語る▲未来は危ういのに、ロシアはどんな風が吹こうとも何知らぬ顔か。主体性

は大切でも秩序を乱しては元も子もない。環境破壊の前には全員が敗者になる。